

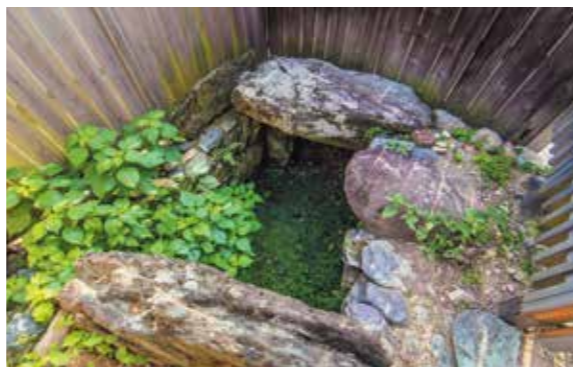


蓮華定院

高野山で真田氏に最もゆかりのある寺院。蟄居を命じられた昌幸・幸村父子が、最初に身を寄せた場所である。院内の至る所に六文銭があしらわれ、昌幸が結んだ宿坊契状や幸村の書状のほか、父子が滞在した上段の間が再建されている。その後、昌幸・幸村父子は妻子との生活が許されたため、当時女人禁制であった高野山から寺領の九度山へ。幸村亡き後は松代(長野県)に移った真田氏の高野山での菩提寺となっている。

左/幸村が兄・信之の家に宛てたとされる焼酎書状など、真田ゆかりの書状の数々。
右/寺院の奥には真田家墓所があり、幸村の兄・信之とその息子・信政が祀られている。

蓮華定院 ★スタンプ
〒伊都郡高野町高野山700
☎0736-56-2233
※南海高野山ケーブル「高野山駅」からバスで約10分「一心口」下車
※宿泊は個人と団体いずれも可能。宿泊のほか、一般の拝観など詳しくは問い合わせを
【MAP】P24-D6



真田古墳 (真田の抜け穴)

真田庵から東へ約170m。幸村が大坂城へ馳せ参る時に、この抜け穴を通して戦場へ出向いたという伝説が残る。実際には、古墳時代後期の古墳で、伝説にちなんで「真田古墳」と名付けられた。

真田古墳
〒伊都郡九度山町九度山
☎自由散策
※南海高野線「九度山駅」から徒歩約15分
【MAP】P24-D5



紀見峠

和歌山県橋本市と大阪府河内長野市の境にある峠。豊臣方に加勢することが決まった幸村が、たぎる思いを胸に、息子の助助らとともに九度山を脱出。その時に通ったのがこの峠ともいわれている。

紀見峠
〒橋本市柱本
☎自由散策
※南海高野線「紀見峠駅」から徒歩約25分
【MAP】P24-A6



与謝蕪村の句碑

江戸時代中期の俳人・与謝蕪村が真田庵を訪れた際に詠んだ句。「かくれ住んで花に真田が謡かな」「炬燵して語れ真田が冬の陣」



雷封じの井

境内にある重い石のふたで封じられた井戸。屋敷に落ちた危険な雷を幸村が井戸に封じ、人々の難を救ったとの伝説が残る。



真田地主大権現

昌幸と幸村、そして幸村の息子・大助と三代の御霊を地主大権現とし、真田庵の守護神として記されている。福德を授ける幸運の神であり、知恵の神として鎮座。



善名称院(真田庵)

真田昌幸・幸村父子が蟄居した庵跡に建つといわれる高野山真言宗の寺院。「真田庵」とも呼ばれている。境内には瓦や門、絵馬など至る所に、真田氏旗印である六文銭があしらわれファン必見。さらに昌幸の墓や真田宝物資料館なども所在する。

上/六文銭は三途の川を渡る渡船料との説がある。下/雁は昔から幸せを呼ぶ鳥として知られ「結び雁金紋」は真田氏の替紋(かえもん)として使用された。

慶長5年(1600)、天下分け目の大戦となる関ヶ原の戦いで敗れ、父・昌幸とともに高野山での蟄居を命じられた幸村。この時、身を寄せたのが蓮華定院である。その後、妻子との生活が許され、庵を高野山の麓の九度山に移す。ここで幸村は生涯で一番長い14年間を家族、家来と過ごす。その生活は決して楽ではなく、国許の兄・信之の援助などで賄っていたとされる。



関ヶ原の戦いで敗れた幸村が父・昌幸とともに蟄居した里・九度山。豊臣秀頼の要請を受諾した幸村は、長男・大助とともに決戦の地・大坂城へ入城する。

平成28年3月13日(日)オープン! 九度山で幸村を知り、その心に触れる 「九度山・真田ミュージアム」

ひのめいものつわもの「日本一の兵」と全国にその名を轟かせた戦国最後の勇将・真田幸村。その生涯が描かれるNHK大河ドラマ「真田丸」(作:三谷幸喜)が、平成28年1月から放送。その中でも九度山は、昌幸・幸村・大助の真田三代にゆかりのある場所として、大河ドラマの舞台の一つになっている。

そんな中、常設の施設として「九度山・真田ミュージアム」がオープン。場所は、父子が蟄居した庵跡に建つ「真田庵」から徒歩約2分。外観は武家屋敷をイメージさせる純和風の造りで、館内の至る所に旗印でおなじみの六文銭が散りばめられ、来訪者を戦国・幸村の世界へと誘う。

館内では真田三代の軌跡と、14年間という幸村の生涯で最も長い時間を過ごした九度山での生活を、パネル展とドラマ仕立ての映像で紹介。さらにオープニングを飾る特別展として「くどやま「真田丸」大河ドラマ展」を開催。出演者のパネルやドラマで着用した衣装、小道具などが展示され、ドラマの世界を体感することができる。10月上旬には展示内容を「九度山篇」にリニューアル。

九度山・真田ミュージアム
〒伊都郡九度山町九度山1452-4
☎0736-54-2727
開9:00~17:00(最終入場16:30) 休なし 大人500円、小・中学生250円(団体割引あり)
※南海高野線「九度山駅」から徒歩約10分 【MAP】P24-D5



上/戦国時代の武家屋敷を連想させる風情あふれる外観が印象的。左/エントランスでは、昌幸・幸村・大助の真田三代がお出迎え。幸村の生きた戦国の時代へとタイムスリップさせる。右/ドラマ展では、実際に使用された衣装や小道具などを展示。ここでは見学できない展示物もあるので、必見。



真田紐

一族の生計を支えると同時に、諸国の情勢を探る役割があったといわれる。縦に引く力が強く、丈夫であり商品としての評判も上々。日常での使用のほか、刀の下げ緒、鎧や兜など武具の装着にも利用された。

善名称院(真田庵)
〒伊都郡九度山町九度山1413
☎0736-54-2019(九度山町産業振興課)
開9:00~16:00
※南海高野線「九度山駅」から徒歩約10分
【MAP】P24-D5

真田宝物資料館
開9:00~16:00
休年末年始
料200円(団体が往復の案内を希望される場合は300円/要予約)



真田宝物資料館
〒伊都郡九度山町九度山1413
☎0736-54-2019(九度山町産業振興課)
開9:00~16:00
休年末年始
料200円(団体が往復の案内を希望される場合は300円/要予約)

真田宝物資料館

真田庵の境内、昌幸・幸村の九度山での生活をテーマに、ゆかりの品や資料を公開。館内には幸村が愛用したとされる槍先や鎧、武器や書状などが並び、当時の暮らしぶりや在りし日の一族の面影を偲ばせている。また一族の生計を支えた真田紐の製造用具なども展示。このほか、善名称院を建立した大安全上人に関する資料なども展示されている。

★スタンプ =スタンプラリー・スタンプ設置場所 (P26参照)

戦国
ゆかりの地を
訪ねて
真田幸村編

幸村の名を全国に轟かせた戦場

徳川20万の兵に対し、豊臣10万。圧倒的な兵数の差に、戦略と戦術で奮戦。戦国最後の合戦「大坂の陣」で幸村は、「日本一の兵」としてその名を全国に轟かせた。



おおさかじょう
大阪城

戦国時代、この地に石山本願寺と呼ばれる大寺院が隆盛を誇ったが、天正8年(1580)、織田信長に屈し伽藍は焼失。その3年後、秀吉が跡地に築城を開始し、大城郭となった。大坂の陣で徳川に攻められて落城した後、幕府によって再築される。天守閣は江戸時代の落雷によって焼失していたが、昭和6年(1931)に市民の熱意によって復興された。

大阪城 天守閣 スタンプ
〒大阪府中央区大阪城1-1
☎06-6941-3044
開9:00~17:00(入館は閉館の30分前)
休年末年始(12月28日~1日1日)
観大人600円、中学生以下無料(要証明)
※JR大阪環状線「大阪城公園駅」から徒歩約15分



上/真田丸があつたとされる南側の展望。
中/天守閣は貴重な文化財を収蔵する博物館施設。3、4階の展示室では展覧会を開催。
下/徳川幕府による大坂城再築は、秀吉の痕跡を一切なくし、石垣の基盤造りから行われた。

天下を統一した豊臣秀吉が居城とした大坂城。ここが戦国時代最後の戦いとなった「大坂の陣」の舞台であり、幸村が奮戦した場所である。慶長19年(1614)の大坂冬の陣で、幸村は城の中でも守りの手薄な南側に徳川勢が進攻すると察知し、そこに出兵を築いて兵を引き付けるといふ策に打って出た。これが世に言う「真田丸」である。
現在の「大阪城」は、徳川幕府による全面的な再築で当時の面影を残しておらず、幸村が活躍した時代の痕跡は数少ない。周辺の「三光神社」には、大坂城から真田丸まで通じていたとされる地下の抜け穴跡がある。また「安居神社」は、幸村戦死の地として伝わる。



さんこうじんじや
三光神社
大阪城から南へ約800m、丘陵の真田山付近に鎮座。天照大神(アマテラスオオミカミ)と月讀尊(ツクヨミ)、素戔嗚尊(スサノオ)の三柱を祀り、中風除けの神として知られる。またこの地は真田丸の一部とも考えられる。

三光神社
〒大阪府天王寺区玉造本町14-90
☎06-6761-0372
開境内自由
※拝観無料
※JR大阪環状線「玉造駅」から徒歩約5分



やすいじんじや
安居神社
天王寺区の茶臼山のそば、少彦名神と菅原道真を祀る古社。大坂夏の陣で幸村が戦死した場所といわれている。最後の決戦として果敢にも徳川の本陣に乗り込み、互角以上に渡り合うも家康本人を討ち取ることができず、境内の一本松の下で無念の最期を遂げたとされる。

安居神社
〒大阪府天王寺区逢坂1-3-24
☎06-6771-4932
開境内自由 ※拝観無料
※地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」から徒歩約5分

上/境内には幸村戦死の地と伝える石碑が建つ。隣には、兜をとり、休息している幸村の座像(©播磨公次)。
下/石碑の後方、幸村が休息していたといわれる「さなだ松」は現在2代目。

スタンプ =スタンプラリー・スタンプ設置場所(P26参照)

戦国
ゆかりの地を
訪ねて
真田幸村編

真田三代のルーツを辿る信濃国

幸村の祖父・幸隆もまた稀代の策士として知られる。真田三代、そのルーツを辿ると信濃国(長野県)へと行き着く。



さなだじやくかたあと
真田氏館跡

上田市真田地域は、その地名通り真田発祥の地とされる場所。一族に関係する史跡も多く、中でも「真田氏館跡」は上田城を築城する以前の居住跡として整備され、御屋敷公園として公開。隣接する「真田氏歴史館」には、真田三代の足跡が時代に沿って資料とともにわかりやすく展示されている。



真田氏館跡
〒長野県上田市真田町本原2984-1
☎0268-72-2204(上田市真田地域自治センター産業観光課) 開敷自由 開無料
※JR北陸新幹線「しなの鉄道」上田電鉄別所線「上田駅」からバスで約30分「ゆきむら夢工房」下車 ※真田氏歴史館への問い合わせは☎0268-72-4344まで



うへだじょう
上田城

天正11年(1583)に昌幸が築城。地形を生かした実践向きの平城で、2度にわたって徳川軍を退けたことから、難攻不落の城として知られる。現在は上田城跡公園として整備され、当時の面影を伝えるのは石垣や櫓など。櫓門や塙は平成期に木造で復元されている。



上田城
〒長野県上田市二の丸
☎0268-23-5408(上田市観光課) 開敷自由 開無料 ※上田市立博物館と上田城櫓門は有料(2館共通) ※JR北陸新幹線「しなの鉄道」上田電鉄別所線「上田駅」から徒歩約12分 ※上田市立博物館への問い合わせは☎0268-22-1274まで

上/歴代上田藩主の甲冑のほか、郷土の養蚕資料や古文書を展示する「上田市立博物館」は、城内二の丸跡のそば。
下/現存する櫓3基のうち西櫓は県宝で、河岸段丘の上に築かれた本丸の隅櫓である。

真田三代、戦いの系譜は幸村の祖父である幸隆から始まる。もともとは現在の長野県上田市を本拠地として栄えた東信濃の領主、海野氏の流れをくむ豪族。一度は武田信虎の侵攻により領地を失うものの、父に謀反を起こした晴信後の信玄の家臣となり、武田二十四将に数えられる歴戦の猛者となった。さらに、家督を継いだ幸隆の三男で幸村の父・昌幸は、天正11年(1583)に上田城を築城。真田家存続のため、その知謀を尽くして名だたる武将たちと戦い、上田城においては2度にわたって徳川の軍を撃退した。

現在の「上田城」は上田城跡公園として整備。園内に残る城郭は、関ヶ原の戦い後に破却され、その後藩主となった仙石忠政によって再建されたもの。
御屋敷公園として整備された「真田氏館跡」も、真田氏発祥の地として歴史散策が楽しめる。

「信州上田真田丸大河ドラマ館」

信州上田は真田発祥の地。もちろん平成28年放送のNHK大河ドラマ「真田丸」でも、幸村の生涯を描く上で重要な位置を占める。上田城をはじめ、真田ゆかりの史跡には、戦国ブームも背景に多くの歴史ファンが来訪。さらに大河ドラマの放送にあわせて、平成29年1月15日(日)まで上田市に「信州上田真田丸大河ドラマ館」がオープン。戦国の乱世を駆け抜けた幸村の波乱万丈な生涯をドラマのストーリーに沿って、セットや衣装などを展示。館内は城郭をイメージした立体スロープで、ドラマと幸村の魅力が存分に紹介されている。7月30日には展示内容を「大阪編」にリニューアル。最新の大河ドラマ「真田丸」の世界を堪能できる。

信州上田真田丸大河ドラマ館
〒長野県上田市二の丸(上田城跡公園内)
☎0268-21-3710(入場券販売管理センター) 開9:00~17:00(最終入場16:30)
観大人600円、小・中学生300円
※無休 ※JR北陸新幹線「しなの鉄道」上田電鉄別所線「上田駅」から徒歩約12分

